神戸新聞 2015年08月28日 金曜日 面名 くらし １３ 18ページ

里山を楽しむ ❷

カブトムシはどこへ

雑木林の中に入ると、甘酸っぱい樹液のにおいがしてきます。嗅覚を頼りにあたりの木々を注意深くみわたすと、クヌギの幹から白い泡のようなものが噴き出ていて、汁がしたたっています。そっと近づいてみると、いました、カブトムシやカナブンが、群がっています。

みんな、樹皮の裏側に顔を突っ込んで夢中になって食事中です。ゴマダラチョウも翅を開閉させながらゆっくり接近。しばらくすると羽音をならしてオオスズメバチやウシアブもやってきました。夏だけにみられる樹液のレストラン。こんな場所をみつけたら、時間がたつのを忘れてしまいます。

ただ、残念なことに、カブトムシのいるにぎやかな集いの場所は、年々少なくなっています。樹液が出ていてもカブトムシの姿がみられないことが多くなりました。

カブトムシがたくさんいたころは、農家の人が雑木林でシイタケの栽培をしていました。クヌギの幹が、太ももくらいに成長すると、伐採してほだ木をとるのです。

真っすぐなほだ木を手に入れるには、幹がスラリと伸びたクヌギが理想です。農家の人は、クヌギがすくすく育つように林床の草を刈り取り、横枝をはらって世話をしてきました。切り取ったほだ木にシイタケの菌を打ち込んで、林の中に並べて収穫します。2～3年とったあとは、ほだ木は腐ってきますので、それらは、1カ所に捨てられます。

30年ほど前、私がよく通っていた雑木林には、小山のように積まれたほだ木捨て場があちこちにありました。このボロボロに朽ちたクヌギの木をカブトムシの幼虫が食べていました。つまり、シイタケの栽培をすることが、カブトムシのすみかをつくっていたのです。

最近、カブトムシが減ったのは、シイタケを栽培する農家が減ったからだと言えます。幼虫の餌場はなくなるし、成虫のすみかである雑木林は管理されないままで、ササが鬱蒼と茂って、樹勢が衰えています。これでは、カブトムシの出番はやってきません。

雑木林でとれる自然栽培のシイタケは、肉厚でとても美味。シイタケの価値が見直されて、ふたたび、雑木林にカブトムシがやってくる日がきてほしいものです。

（今森光彦・写真家）

＝原則第4金曜日に掲載します＝

「樹液のレストラン」に集うカブトムシなどの昆虫（撮影・今森光彦）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名前【　　】

① 雑木林の中で、甘酸っぱいにおいがして、カブトムシなどの昆虫がたくさん集まる来は何ですか。名前を書きましょう。

（　　）

② この記事に出てきた昆虫の名前を全て書きましょう。

③ 最近、カブトムシが減ったのは、なぜでしょう。理由を記事中の言葉を使って17字で書きましょう。

④ この記事を読んだ感想を書きましょう。

NIEワークシート／小学校高学年～中学生／理科、総合、朝NIE